⑪ 富士愛育園 1954(S29)～

富士愛育園(材木座 6-8-20)は、1954(S29)年敗戦後、鎌倉市内に始めて出来た私立保育園で腰越、大船地区を除き私立保育園はここしかなかった。

開園までの経緯は、鎌倉が市制を敷いた 1939(S14)年以降、二代目市長を務めた鈴木富士弥の没後夫人マツは富士弥の「富士」を冠することを条件にすべての資産を鎌倉の幼児のために寄付する旨を遺言する。鈴木家には子供がなく、生前からの関係者代表の教育者細井次郎が遺言の執行に当たり、大船聖アンナの園から初代園長川上俊彦を招いてカトリックの教えを園の礎にします。細井は教育者として高い理想を持ち、清泉女学校中高学校長(48・S23 年)なども務めている。

そのころ別荘地鎌倉は、東京への通勤者の地となり、児童を取り巻く環境も変わり、敗戦後の諸事情を考え保育園にしたのではないかと二代園長依田千鶴は述べている。(「ふじ」13　富士愛育園創立 25 周年記念号)

二代園長依田千鶴、三代園長遠藤たいは、キリスト教の教義が浸透するよう活動する女性聖職者の会「聖カテキスタ会」（現聖マリア在俗会）から派遣されたが、会員の高齢化により一般信者から園長が選ばれ、四代園長は松井幸子が就任（1998 年）した。

三代園長の遠藤たいの教育は、手先を使うこと、順序立てて行うこと、集中して行うこと、雑巾を絞ること、身の回りのことを自分ですること等、幼児期に身に付けるべき大切なポイントをきめ細かく教えた。

これは、モンテッソーリ教育の基本に通じ、松井幸子も改めてモンテッソーリの教育法に学んだ。

2003（H15）年「ふじ」62 の中で、松井幸子は「富士愛育園的子育て、子育ての「真の楽しさ」を知り、少子化対策にも貢献したい」に続いて「時代の流れと共に、何年かの課題であった待機児童解消のための定員増・乳児保育の充実・一時保育の受け入れ・地域育児支援室の開設を実施するため、この度園舎を建て替える事となりました」と述べている。

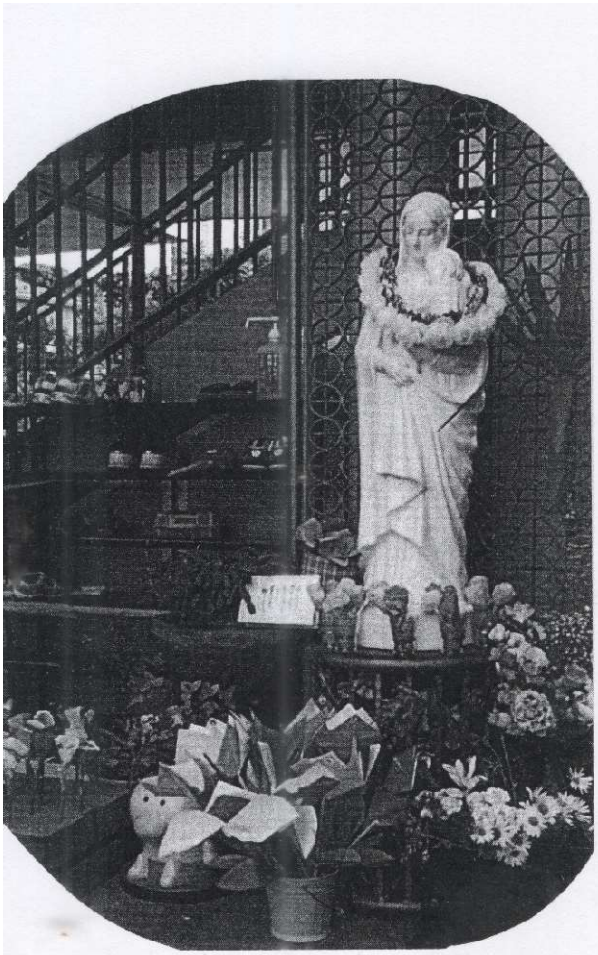
そして 03 年園舎が竣工し、定員は 110 人となる。

五代園長桑原フミ子は、富士愛育園の良いところは「手作り」と明言している。(「ふじ」73　園児・職員紹介特別号　2008 年)

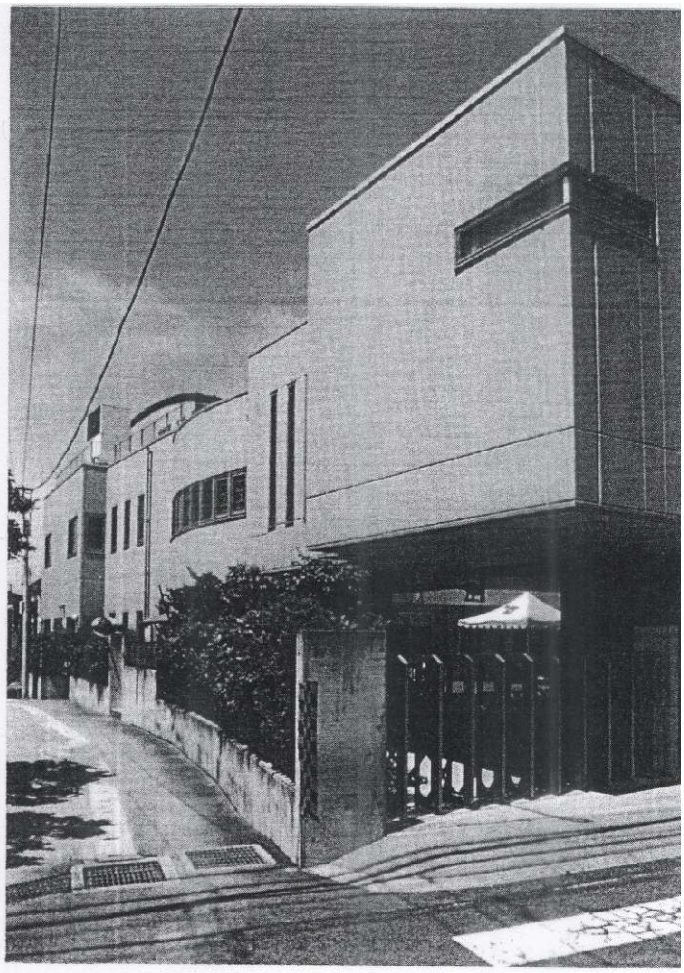
富士愛育園では、日常のお祈りと共に大切にしている園のことばがあり

「うつくしいこころと
つよいからだは　わたしのたから」

と詠っている。



マリア祭



新築の富士愛育園